

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292400072		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコートちはら台 1階		
所在地	千葉県市原市ちはら台東9-11-4		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成29年2月8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お客様一人ひとりとしっかり向き合い、信頼関係を築くこと、お客様の健やかな暮らしが継続できるよう支援しています。施設内では様々なボランティアの方々を招いての行事と外出では、お客様の要望を取り入れた外食会を行っております。また、障害者支援団体様主催のバリアスポーツや敬老会、乙月公園祭りなどに参加し、また納涼祭を開催し地域交流を図り地域活動にも積極的に参加しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が毎日楽しい生活が送れるように、「Let's enjoy」をホームのスローガンに掲げ、毎朝の申し送り時に職員間で確認し共有しています。月に一度季節の行事を楽しめるように取り組むほか、ホーム内での納涼祭や沖縄民謡、クリスマス会の開催、近隣の公園で開催されるお祭りなどへの参加を通じて利用者の生活の幅を広げ楽しく生活が送れるように取り組んでいます。また、障害者支援団体主催のバリアスポーツ(ポッチャ)にも利用者と一緒に参加することを継続し、楽しみにつなげることができています。今後においても日常的な外出支援や地域との交流充実に向け積極的に取り組む姿勢が確認できました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Let's enjoy!」をスローガンとし、お客様の健やかな暮らしに貢献させていただく中で、お客様にとっての楽しみのある生活を支援させていただくことが職員にとっても楽しみのある時間として共有いただくことを意識して実践しております。	「Let's enjoy」をホームのスローガンに掲げ、毎朝の申し送り時にスローガンに振り返る機会を設けています。全職員でスローガンを共有し、利用者を楽しみが提供できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の主催するイベントなどに積極的に参加する他に、ガーデンコート主催の納涼祭には地域のボランティアや、近隣の方々にも参加して頂いています。	ホームで開催される納涼祭や沖縄民謡、クリスマス会などには地域の方にも声をかけ交流が図れるように取り組んでいます。また、地域の餅つきや敬老会、コミュニティセンターでのポッチャの活動に利用者と一緒に参加をし交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には、お客様と一緒にできるだけ参加しています。 問い合わせには随時、介護相談を受け付けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での活動・お客様の状況を報告し、ご家族様や他職種の方にも参加いただき質疑応答形式でアドバイスを頂いております。	会議には地域包括支援センター、民生委員、福祉用具担当者、薬局、家族代表者等の参加を受け2か月に一度定期的を実施しています。会議では、運営状況や行事報告のほか参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類、変更届等は速やかに提出し不明な点があれば電話もしくは直接お伺いし相談と指導をいただいています。	運営上疑問が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰ぐようにしています。質問には丁寧に回答があり、市の担当課とも協力関係を築くことができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修通じ学んでいます。安全面の考慮から、玄関・階段の施錠を行っています。(エレベーターでの上下階を歩き来することは可能、玄関を開ける際は職員に声をかけをお願いします。)	認知症をテーマにした内部研修を通じて言葉による行動制限が起きないように全体の意識を高めています。玄関については安全上施錠していますが、行動制限することではなく、身体拘束につながるような事例は発生していません。	今後に向けては、ホーム内でも身体拘束や虐待防止研修が定期的実施できることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修にて学ぶ機会を設けたり、また定期面談にて職員一人ひとりに不適切な行為等がないかの確認と意識付けをおこなっています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や連絡ファイルを通じ情報の共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明時にお客様、家族様の疑問や不安に真摯にお答えし納得いただいた上で署名・捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意向や要望は、来訪時、面談時(担当者会議)電話連絡時、運営推進会議の際などにご意見を伺えるよう心がけ解決策を職員にも、その都度申し送りをし共有しています。	家族からの意見や要望は面会に訪れた際や電話での報告時、ケアプラン説明の際に直接確認しています。また、年に一度顧客満足度調査を実施しており、ホームに対して意見や要望等を気軽に表せる機会を定期的に設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月毎に面談を実施しています。また、フロア毎にノートを設け自由記入や拠点会議や申し送り際に意見交換・検討を行っています。	管理者は3ヶ月に一度職員と個人面談を実施しており、職員からの意見や要望を定期的に確認しています。利用者の支援や業務に関しては毎月の拠点会議を通じて意見や提案を収集し日々の支援に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がまとめた職員個々の情報を統括し、環境改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修の他、本社研修、社外研修等の紹介を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所様との交流を図るため、定期的に訪問させていただいたり勉強会等に参加し交流する機会を作っています。施設見学をさせていただいたり、お招きをして情報交換などを行っています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のニーズを引き出せるようコミュニケーションを図ることを心がけております。職員間での情報共有を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の段階で、ご本人が必要とする支援は何かを見極めた上で、私たちにできること・できないことをお伝えし話し合いの中で提案しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CM、それまでいた施設、病院、ご家族様から多くの情報をもらい、今までの生活に近づくようなサービスを心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が必要なタイミングを見極め、必要に応じた介護、声かけを行っています。お客様と共に炊事、掃除、洗濯等の日常生活を一緒に行う事で信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から連絡をこまめにとり、本人の状況をお互いに提供しあえる関係作りを行っています。また、行事などのご案内などのご案内をし参加や見学等をいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様との日常会話から情報を把握し家族様との外出、外泊や友人からの電話の取り次ぎなど関係が途切れないように努めています。	馴染みの人や場所との関係が途切れることがないように、友人や親せきとの手紙のやり取りや電話の取り次ぎ、家族の協力を得て馴染みの場所に出かけるなど、これまでの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が交流できるような場を設け、共同作業等を通じ、より良い関係が築けるよう働きかけています。孤立してしまう方へは個別ケアを通し少しずつ距離を縮められるよう努めています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了した後も気軽に連絡を頂けるような声かけをしています。その後の様子伺えるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用される前の状況を可能な限りリサーチし、本人の意向に添えるよう努めています。また生活していくうえで意向は変わるため、本人の言葉を常に傾聴し望む暮らしに近づけるよう心がけております。	利用者の思いや意向については、日常会話の中から収集し日々の支援に反映しています。またケアプラン作成および更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題、思い等を定期的に確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様から今までの生活歴を伺い、従来の生活から可能な限りズレが無いよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、日ごろの変化に注意を払い職員同士や家族様を交えた情報交換ができるようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しを行っています。日頃より、ご本人や家族様と話す機会を設け、往診時などに主治医や看護師、薬剤師に相談を行った内容などをケアプランに反映。より良い生活を送っていただけよう心がけています。	ケアプラン作成や更新にあたっては担当者会議において職員の意見を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを作成しています。ケアプラン作成後は家族に同意を得て、毎月のモニタリングにおいて目標の達成状況を確認しています。	職員の意見を踏まえケアプランを作成していますが、今後に向けては主治医の意見についても収集しケアプランを作成できると良いと考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録しています。重要事項は申し送りや、業務日誌、会議などを通じて全職員が把握できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や地域行事に参加している。地域のボランティアが行っているスポーツなどへの参加も事業所で取り組んでいます。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事、防犯パトロール、ごみステーションの清掃などに参加し、地域住民との繋がりを持てるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については、入居前に説明させて頂き、月2回の往診や訪問歯科を受けています。 また、ご家族と連絡を取り合い、必要に応じた医療については通院をしております。	提携先医療機関による往診が定期的であり、必要な医療を受けられる体制としています。医療機関とは24時間のオンコール体制を築き、体調変化時にも迅速に対応できる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ協力医療機関の看護師や施設看護師へ連絡を取っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、必要事項は入院先の担当医、看護師へ情報提供を行っています。入院中は状況確認に伺っています。退院の際は、今後の治療や注意事項についてヒヤリングを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としてできる事、できない事を明確に説明をし、ご本人とご家族が納得された上で、主治医・看護師を交えてケアの方向性を決めていきます。	重度化や終末期の方針に関しては、契約時において方針を説明し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有しています。重度化が見られる場合は、家族や主治医と再度話し合いを行い、今後の方針を検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から事故の事例や急変などを全員の職員で共有・把握し急変時の対応等にも慌てることなく対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いでの防災訓練の他、消防設備点検に合わせ非常通報装置の取り扱いなども含めた訓練を行っています。	平成28年7月と10月の年2回火災を想定した避難訓練を実施しています。7月の訓練には消防署立会いの下実施しています。災害時を想定し、災害時マニュアルが新たに作成されたほか、災害備蓄品についても近隣の系列の事業所に保管する形としています。	災害に備え、意識高く取り組んでいます。が、今後に向けては、災害発生時において近隣の協力体制がどの程度得られるのかより明確になることを期待します。

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握したうえで、敬意を持ち言葉かけや対応をしています。	毎月の拠点会議や毎朝の申し送りを通じて、利用者への言動や行動を振り返り、不適切な対応が発生しないように取り組んでいます。トイレ誘導時の声掛けや居室への入室の際にも羞恥心やプライバシーに配慮し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたい事、行きたい場所、食べたい物をお客様と一緒に考え、自己決定できるような関わり方を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムに合わせ 食事の時間、入浴の時間などの希望を叶えられるよう、できり限りの調整をし、ご本人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭そりや着替えなど、お声がけをし、お手伝いをしています。2か月毎に訪問美容で整髪を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に同じテーブルを囲んで食事をしています。準備から味付け、配膳 洗い物等、一緒に行って頂けるよう声かけをして行っています。	テーブル拭きやおしぼりたたみ、お皿洗いなどの作業には利用者も関わりながら準備を進めています。利用者のリクエストを食事メニューに反映したり、旬の食材の活用やファミリーレストランでの外食なども行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を提供させて頂いています。水分量については、ある程度設定された量を摂取して頂くよう声をかけて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方には声かけ、介助の必要な方には、スポンジブラシや口腔ウエットティを使用し介助を行い清潔を維持しております。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、適切なタイミングのトイレ誘導を心がけております。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌に水分摂取量や排泄に関する記録を残し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と運動不足に留意しつつ、おおよその排泄間隔を把握することに努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安となる入浴予定はありますが、ご本人の意向、当日の体調で検討し、変更等を行っています。	利用者の体調やタイミングを考慮し、週2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき、転倒等が生じないように安全面には十分に配慮しています。また、温泉浴場への外出なども行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースを大切にし穏やかにお過ごしいただけるよう状況に応じて柔軟な対応を心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師に立ち会って頂き、服薬管理、薬剤の説明と服薬指導を受けております。職員は、症状の変化や状態を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし、職員がアイデアを出し合って気分転換できるサービスを考えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日に近隣の公園に散歩に出かけたり、行事としてお客様の要望を伺いながら外食会などを行っています。また、個人の買い物の希望があれば、叶えられるよう支援しております。	近隣のドラッグストアやファッションセンターへの外出、七夕祭りの見学やファミリーレストラン、温泉浴場に外出しています。また、地域行事への参加やコミュニティセンターでのボッチャの活動に利用者と一緒に参加をし活動性を高めています。	日頃から戸外で活動できる機会を設けていますが、今後に向けては、年間を通して計画的に外出行事を計画できると良いと考えます。

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物品がある場合は、お預かりしているお小遣いの中から、ご本人の欲しいものを選んで支払ができるよう支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりに関しましては、制限はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有フロアには、季節に合わせた装飾を飾り季節が目で見えてわかるよう工夫しています。 フロアにはソファを置きゆったりと過ごせるようにしています。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では各自のイスの他にソファを自由に使用していただける空間を提供しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や好みの物をお持ち頂いたり、本人とご家族と相談のうえ、家具の配置を決めています。	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、ご利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様のできる事、わかることを職員が把握し、自立した生活が送れるようにベッドの配置やテーブルの位置を検討し安全に過ごせるよう心がけております。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400072		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコートちはら台 2階		
所在地	千葉県市原市ちはら台東9-11-4		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成29年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様一人ひとりとしっかり向き合い、お客様の能力の維持に努め、お客様の健やかな暮らしが継続できるよう支援しています。施設内では様々なボランティアの方々を招いての行事と外出では、お客様の要望を取り入れた外食会を行っております。また、障害者支援団体様主催のバリアスポーツや敬老会、乙月公園祭りなどに参加し、また納涼祭を開催し地域交流を図り地域活動にも積極的に参加しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が毎日楽しい生活が送れるように、「Let's enjoy」をホームのスローガンに掲げ、毎朝の申し送り時に職員間で確認し共有しています。月に一度季節の行事を楽しめるように取り組むほか、ホーム内での納涼祭や沖縄民謡、クリスマス会の開催、近隣の公園で開催されるお祭りなどへの参加を通じて利用者の生活の幅を広げ楽しく生活が送れるように取り組んでいます。また、障害者支援団体主催のバリアスポーツ(ポッチャ)にも利用者と一緒に参加することを継続し、楽しみにつなげることができています。今後においても日常的な外出支援や地域との交流充実に向け積極的に取り組む姿勢が確認できました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Let's enjoy!」をスローガンとし、お客様の健やかな暮らしに貢献させていただく中で、お客様にとっての楽しみのある生活を支援させていただくことが職員にとっても楽しみの時間として共有いただくことを意識して実践しております。	「Let's enjoy」をホームのスローガンに掲げ、毎朝の申し送り時にスローガンに振り返る機会を設けています。全職員でスローガンを共有し、利用者に楽しみが提供できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の主催するイベントなどに積極的に参加する他に、ガーデンコート主催の納涼祭には地域のボランティアや、近隣の方々にも参加して頂いています。	ホームで開催される納涼祭や沖縄民謡、クリスマス会などには地域の方にも声をかけ交流が図れるように取り組んでいます。また、地域の餅つきや敬老会、コミュニティセンターでのポッチャの活動に利用者と一緒に参加をし交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には、お客様と一緒にできるだけ参加しています。 問い合わせには随時、介護相談を受け付けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での活動・お客様の状況を報告し、ご家族様や他職種の方にも参加いただき質疑応答形式でアドバイスを頂いております。	会議には地域包括支援センター、民生委員、福祉用具担当者、薬局、家族代表者等の参加を受け2か月に一度定期的実施しています。会議では、運営状況や行事報告のほか参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類、変更届等は速やかに提出し不明な点があれば電話もしくは直接お伺いし相談と指導をいただいています。	運営上疑問が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰ぐようにしています。質問には丁寧に回答があり、市の担当課とも協力関係を築くことができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修通じ学んでいます。安全面の考慮から、玄関・階段の施錠を行っています。(エレベーターでの上下階を往来することは可能、玄関を開ける際は職員に声かけをお願いします。)	認知症をテーマにした内部研修を通じて言葉による行動制限が起きないように全体の意識を高めています。玄関については安全上施錠していますが、行動制限することではなく、身体拘束につながるような事例は発生していません。	今後に向けては、ホーム内でも身体拘束や虐待防止研修が定期的実施できることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて学ぶ機会を設けたり、また定期面談にて職員一人ひとりに不適切な行為等がないかの確認と意識付けをおこなっています。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や連絡ファイルを通じ情報の共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明時にお客様、家族様の疑問や不安に真摯にお答えし納得いただいた上で署名・捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意向や要望は、来訪時、面談時(担当者会議)電話連絡時、運営推進会議の際などにご意見を伺えるよう心がけ解決策を職員にも、その都度申し送りをし共有しています。	家族からの意見や要望は面会に訪れた際や電話での報告時、ケアプラン説明の際に直接確認しています。また、年に一度顧客満足度調査を実施しており、ホームに対して意見や要望等を気軽に表せる機会を定期的に設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月毎に面談を実施しています。また、フロア毎にノートを設け自由記入や拠点会議や申し送り際に意見交換・検討を行っています。	管理者は3ヶ月に一度職員と個人面談を実施しており、職員からの意見や要望を定期的に確認しています。利用者の支援や業務に関しては毎月の拠点会議を通じて意見や提案を収集し日々の支援に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がまとめた職員個々の情報を統括し、環境改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修の他、本社研修、社外研修等の紹介を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所様との交流を図るため、定期的に訪問させていただいたり勉強会等に参加し交流する機会を作っています。施設見学をさせていただいたり、お招きをして情報交換などを行っています。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のニーズを引き出せるようコミュニケーションを図ることを心がけております。職員間での情報共有を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の段階で、ご本人が必要とする支援は何かを見極めた上で、私たちにできること・できないことをお伝えし話し合いの中で提案しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CM、それまでいた施設、病院、ご家族様から多くの情報をもらい、今までの生活に近づくようなサービスを心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が必要なタイミングを見極め、必要に応じた介護、声かけを行っています。お客様と共に炊事、掃除、洗濯等の日常生活を一緒に行う事で信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から連絡をこまめにとり、本人の状況をお互いに提供しあえる関係作りを行っています。また、行事などのご案内などのご案内をし参加や見学等をいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様との日常会話から情報を把握し家族様との外出、外泊や友人からの電話の取り次ぎなど関係が途切れないように努めています。	馴染みの人や場所との関係が途切れることがないように、友人や親せきとの手紙のやり取りや電話の取り次ぎ、家族の協力を得て馴染みの場所に出かけるなど、これまでの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が交流できるような場を設け、共同作業等を通じ、より良い関係が築けるよう働きかけています。孤立してしまう方へは個別ケアを通し少しずつ距離を縮められるよう努めています。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了した後も気軽に連絡を頂けるような声かけをしています。その後の様子伺えるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用される前の状況を可能な限りリサーチし、本人の意向に添えるよう努めています。また生活していくうえで意向は変わるため、本人の言葉を常に傾聴し望む暮らしに近づけるよう心がけております。	利用者の思いや意向については、日常会話の中から収集し日々の支援に反映しています。またケアプラン作成および更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題、思い等を定期的に確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様から今までの生活歴を伺い、従来の生活から可能な限りズレが無いよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、日ごろの変化に注意を払い職員同士や家族様を交えた情報交換ができるようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しを行っています。日頃より、ご本人や家族様と話す機会を設け、往診時などに主治医や看護師、薬剤師に相談を行った内容などをケアプランに反映。より良い生活を送っていただけるよう心がけています。	ケアプラン作成や更新にあたっては担当者会議において職員の意見を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを作成しています。ケアプラン作成後は家族に同意を得て、毎月のモニタリングにおいて目標の達成状況を確認しています。	職員の意見を踏まえケアプランを作成していますが、今後に向けては主治医の意見についても収集しケアプランを作成できると良いと考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録しています。重要事項は申し送りや、業務日誌、会議などを通じて全職員が把握できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や地域行事に参加している。地域のボランティアが行っているスポーツなどへの参加も事業所で取り組んでいます。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事、防犯パトロール、ごみステーションの清掃などに参加し、地域住民との繋がりを持てるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については、入居前に説明させて頂き、月2回の往診や訪問歯科を受けています。 また、ご家族と連絡を取り合い、必要に応じた医療については通院をしております。	提携先医療機関による往診が定期的であり、必要な医療を受けられる体制としています。医療機関とは24時間のオンコール体制を築き、体調変化時にも迅速に対応できる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ協力医療機関の看護師や施設看護師へ連絡を取っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、必要事項は入院先の担当医、看護師へ情報提供を行っています。入院中は状況確認に伺っています。退院の際は、今後の治療や注意事項についてヒヤリングを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としてできる事、できない事を明確に説明をし、ご本人とご家族が納得された上で、主治医・看護師を交えてケアの方向性を決めていきます。	重度化や終末期の方針に関しては、契約時において方針を説明し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有しています。重度化が見られる場合は、家族や主治医と再度話し合いを行い、今後の方針を検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から事故の事例や急変などを全員の職員で共有・把握し急変時の対応等にも慌てることなく対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いでの防災訓練の他、消防設備点検に合わせ非常通報装置の取り扱いなども含めた訓練を行っています。	平成28年7月と10月の年2回火災を想定した避難訓練を実施しています。7月の訓練には消防署立会いの下実施しています。災害時を想定し、災害時マニュアルが新たに作成されたほか、災害備蓄品についても近隣の系列の事業所に保管する形としています。	災害に備え、意識高く取り組んでいます。が、今後に向けては、災害発生時において近隣の協力体制がどの程度得られるのかより明確になることを期待します。

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握したうえで、敬意を持ち言葉かけや対応をしています。	毎月の拠点会議や毎朝の申し送りを通じて、利用者への言動や行動を振り返り、不適切な対応が発生しないように取り組んでいます。トイレ誘導時の声掛けや居室への入室の際にも羞恥心やプライバシーに配慮し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたい事、行きたい場所、食べたい物をお客様と一緒に考え、自己決定できるような関わり方を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムに合わせ 食事の時間、入浴の時間などの希望を叶えられるよう、できり限りの調整をし、ご本人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭そりや着替えなど、お声がけをし、お手伝いをしています。2か月毎に訪問美容で整髪を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に同じテーブルを囲んで食事をしています。準備から味付け、配膳 洗い物等、一緒に行って頂けるよう声かけをして行っています。	テーブル拭きやおしぼりたたみ、お皿洗いなどの作業には利用者も関わりながら準備を進めています。利用者のリクエストを食事メニューに反映したり、旬の食材の活用やファミリーレストランでの外食なども行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を提供させて頂いています。水分量については、ある程度設定された量を摂取して頂くよう声をかけて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方には声かけ、介助の必要な方には、スポンジブラシや口腔ウエットティを使用し介助を行い清潔を維持しております。		

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、適切なタイミングのトイレ誘導を心がけております。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌に水分摂取量や排泄に関する記録を残し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と運動不足に留意しつつ、おおよその排泄間隔を把握することに努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安となる入浴予定はありますが、ご本人の意向、当日の体調で検討し、変更等を行っています。	利用者の体調やタイミングを考慮し、週2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき、転倒等が生じないように安全面には十分に配慮しています。また、温泉浴場への外出なども行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースを大切にし穏やかにお過ごしいただけるよう状況に応じて柔軟な対応を心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師に立ち会って頂き、服薬管理、薬剤の説明と服薬指導を受けております。職員は、症状の変化や状態を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし、職員がアイデアを出し合って気分転換できるサービスを考えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日に近隣の公園に散歩に出かけたり、行事としてお客様の要望を伺いながら外食会などを行っています。また、個人の買い物の希望があれば、叶えられるよう支援しております。	近隣のドラッグストアやファッションセンターへの外出、七夕祭りの見学やファミリーレストラン、温泉浴場に外出しています。また、地域行事への参加やコミュニティセンターでのポッチャの活動に利用者と一緒に参加をし活動性を高めています。	日頃から戸外で活動できる機会を設けていますが、今後に向けては、年間を通して計画的に外出行事を計画できると良いと考えます。

グループホームガーデンコートちはら台(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物品がある場合は、お預かりしているお小遣いの中から、ご本人の欲しいものを選んで支払ができるよう支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりに関しましては、制限はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有フロアには、季節に合わせた装飾を飾り季節が目で見えてわかるよう工夫しています。 フロアにはソファを置きゆったりと過ごせるようにしています。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では各自のイスの他にソファを自由に使用していただける空間を提供しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や好みの物をお持ち頂いたり、本人とご家族と相談のうえ、家具の配置を決めています。	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、ご利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様のできる事、わかることを職員が把握し、自立した生活が送れるようにベッドの配置やテーブルの位置を検討し安全に過ごせるよう心がけております。		